



# BORDERLESS IR CO., LTD

## ANNOUNCES NEWSLETTER

株式会社識学(7049 東証グロース)  
2023年2月期第1四半期決算概要

2022年7月11日東京

**2023年2月期第1四半期は、3割の増収。組織の生産性向上を図ることに対する「識学」導入ニーズは強くサービス需要は依然旺盛**

### 決算サマリー

○2023年2月期第1四半期連結累計期間は、同社を取り巻く環境として、同社の「従業員を結果で管理する」、「ルールに基づく組織運営により働く場所に関係なく結果を出す」という組織の生産性向上を図ることに対する市場ニーズは強く、サービスの需要は引き続き高い状況が続いている。

○同社グループの企業理念は「識学を広める事で人々の持つ可能性を最大化する」ことで、組織コンサルティング事業では、積極的な講師人材の採用及び育成、講師の品質管理を徹底的に行いながら、「識学」が顧客の組織に浸透する状態を実現するべくサービス提供を行っている。スポーツエンタテインメント事業においては、2022年5月にBリーグの2021-22シーズンが終了するまで、B1昇格を目標にチーム強化への積極的な投資を行いながら、地域密着型クラブとして認知度向上に向けたマーケティング活動やスポンサー獲得のための積極的な営業活動を行ってきた。VCファンド事業及びハンズオン支援ファンド事業においては、識学2号投資事業有限責任組合が新たに4社に、新生識学成長支援1号投資事業有限責任組合が新たに1社に出資を決定するなど、積極的な投資を行ってきた。なお、受託開発事業は撤退を決定したため業務委託契約の解除に伴う違約金30,400千円が発生、同費用を特別損失として計上した。また、報告セグメントからも受託開発事業は除かれることになった。

○2023年2月期第1四半期連結累計期間の売上高は1,102,373千円(前年同期比30.6%増)、EBITDA(営業利益+減価償却費+のれん償却費+敷金償却費)は49,825千円(前年同期43.7%減)、営業利益は33,768千円(前年同期比52.9%減)、経常利益は20,569千円(前年同期比65.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失は26,145千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益21,281千円)となった。

○組織コンサルティング事業にはマネジメントコンサルティングサービスとプラットフォームサービスがある。マネジメントコンサルティングサービスは、当第1四半期連結累計期間、講師の積極的な採用と顧客基盤拡大のための積極的なマーケティング活動による投資を継続し、講師数は前年連結会計年度末から4名増加し77名となった。同サービスの当第1四半期連結会計年度末時点の累計契約社数は3,047社(前連結会計年度末は2,873社)となった。当第1四半期連結累計期間の売上高は、618,533千円(前年同期比21.3%増)となった。プラットフォームサービスは、当第1四半期連結累計期間においては、2020年9月よりサービス提供を開始した「識学」に基づく組織運営が定着す

るまで継続的に運営支援を行う「識学 基本サービス」の拡販に注力。同サービスの診断により、組織課題が明確になり、課題解決に向けたサポートを実施することができ、顧客満足度の向上に取り組んできた。識学基本サービスの当第1四半期連結会計期間末における契約社数は558社(前連結会計年度末は524社)、識学クラウド契約者数は99社(前連結会計年度末は115社)、識学基本サービスライト(旧識学会員)の会員数は232社(前連結会計年度末は248社)となった。当第1四半期連結累計期間のプラットフォームサービスの売上高は383,362千円(前年同期比74.2%増)となった。結果、組織コンサルティング事業の当第1四半期連結累計期間の組織コンサルティング事業における売上高は、1,001,896千円(前年同期比37.3%増)、営業利益は108,371千円(前年同期比10.7%減)となった。

○スポーツエンタテインメント事業は、当第1四半期連結累計期間において、B1リーグへの昇格を目指してチームの強化を行いながら、「地域密着型クラブ」として地域スポーツ振興を普及することを目的とした取組みを行ってきた。当第1四半期連結会計期間において、2022-23シーズンのスポンサー獲得に向けた営業活動及び営業人員の採用、新たな収益基盤である企業版ふるさと納税の拡充に向けた地方公共団体との連携強化に努め、2022年5月に終了した2021-22シーズンのスポンサーからの累計受注額は160,505千円(前年同期比64.3%増)と順調に推移したが、チーム強化に向けたチーム運営費の継続的な投資を行ったことによりコストが先行することになった。結果、スポーツエンタテインメント事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は、87,119千円(前年同期比67.8%増)、営業損失は44,486千円となった。

○VCファンド事業では、「組織力」、「成長する組織への転換」に着目した投資を行い、投資先企業への「識学」導入による組織改善によって成長支援するベンチャーキャピタルファンドを運営、識学2号投資事業有限責任組合は新たに4社に対して出資を決定するなど積極的な投資を行ってきた。結果、VCファンド事業の当第1四半期連結累計期間の営業損失は28,788千円となった。

○ハンズオン支援ファンド事業の当第1四半期連結累計期間においては、投資先のEXIT(IPO,M&Aなど)によるキャピタルゲインを収益源とする「組織改善支援×金融・ファイナンス支援」というハンズオン支援ファンドを運営。新生識学成長支援1号投資事業有限責任組合が新たに1社出資を決定。結果、ハンズオン支援ファンド事業の当第1四半期連結累計期間の営業損失は3,034千円となった。

株式会社識学(7049 東証グロース) <https://corp.shikigaku.jp/>

2023年2月期第1四半期決算短信については、こちらをご参照ください。

→ <https://global-assets.irdirect.jp/pdf/tdnet/batch/140120220629591247.pdf>

## リリースの免責事項

本リリースは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。なお、本サービスにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

## リリースに関する照会先

Borderless IR 株式会社 <http://b-ir.co.jp/japanese/main.php>

〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-2-10 東洋ビル 6F

TEL 03-4588-6706 担当:福田 徹

お問い合わせ <http://b-ir.co.jp/japanese/contact.php>

Borderless IR は、国内・海外向けIR情報配信専門の会社です。国内・世界有数のメディア、企業情報データベース、メーリングリスト等を通じ、海外投資家にダイレクトに企業の最新情報と本質的な強みを主としてニュースレターとアナリストレポートで配信しています。その他、海外IR支援全般を手掛けているプロフェッショナル企業です。

©Borderless IR Co., Ltd. All rights Reserved

本リリースに掲載された内容を許可なく複製、転載することを禁じます。